

■ ものづくり群馬

群馬県では、古墳時代に大陸の先進技術が導入され、土地開発や馬生産などが開始されました。7世紀以降も、この先進文化と技術を基盤として、新たに文字や仏教文化を取り入れ、高い生産力や技術を保持していました。

中世・近世においても、人、モノ、情報の流通の拠点としての歴史を刻み、また、教育の振興もはかられ、これがフランスの技術を導入した富岡製糸場や中島飛行機など群馬の近代産業へとつながり、現在のものづくり群馬へと受け継がれています。



日本の近代化に貢献した絹産業を代表する「富岡製糸場」



日本の最先端技術を大きく前進させた「中島飛行機」を前身とする富士重工業(株) (写真は、群馬製作所本工場(昭和32年頃))

■ 風土と生活の知恵がつくりあげた伝統工芸

群馬県の伝統工芸は、繊維製品、木工品をはじめ、竹細工や金工品、陶器・ガラス製品、和紙、瓦、そして、だるまや創作こけしなどの諸工芸品のほか、地域の風土や人々の生活の知恵がつくりあげた多彩な品々が存在します。



群馬県のような伝統工芸 (写真は、左からこけし、金工品、鬼面瓦)

■ 交通の要衝

群馬は、古来より西日本と東日本を結ぶ交通の要衝にありました。奈良時代の東山道駅路、中世にはあずま道や鎌倉街道、江戸時代には中山道、その他多くの街道が通り、文化が伝播し、交わる地でした。現在も、東京圏、信越地方、東北地方及び中京圏を結ぶ交通の結節点として、高速交通の十字軸を形成する高速道路網や新幹線が整備されています。



京都から日光へ例幣使が通った
「日光例幣使街道」(倉賀野宿・高崎市)



幕府御用銅を運ぶ
「足尾銅山街道(あかがね街道)」
(桐原宿・みどり市)



中山道の関所跡
県史跡「碓氷関所跡」(安中市)



今も江戸時代の面影が残る県内各地の宿場の町並み

(中山道：坂本宿・安中市(写真左)、日光例幣使街道：玉村宿・玉村町(写真右))



■ 地域に根ざした伝統文化

古代から東国文化の中心地として、また、江戸時代には養蚕や交通の要衝として栄えた豊かな地域社会を背景にして、農村歌舞伎や人形芝居、神楽、獅子舞、民俗行事、民謡・民舞など、それぞれの地域に根ざした伝統文化が県内各地に息づいています。



農村歌舞伎「上三原田歌舞伎舞台」(渋川市)
(国重要有形民俗文化財)



人形芝居「尻高人形」(高山村)
(国選択無形民俗文化財)



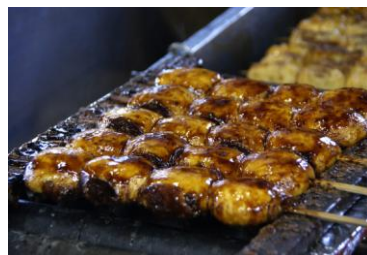
月田近戸神社の獅子舞(前橋市)
(県重要無形民俗文化財)



桐生八木節まつり(桐生市)

■ 生活に根付いた食文化

冬の長い日照、からっ風、水はけのよい土壌などは小麦の栽培に適した環境です。このため、県内には、小麦粉を使った食文化、すなわち「粉食文化」が根付いています。



郷土料理「おっきりこみ」(左)と「焼きまんじゅう」(右)



ご当地グルメ。左から「焼きそば」(太田市)、「パスタ」(高崎市)、もんじゃ焼き(伊勢崎市)

■ 美しい魅力的な風景を語る短詩型文学

日本最古の万葉集の第14集に収められている「東歌」には、古代の群馬「上野国」が東国の中では最も多く歌われています。群馬の美しく、魅力的な風景が、短歌や俳句、詩などの形で表現され、歌われてきました。また、江戸時代には高崎藩などで詩歌が栄え、また農村においても富裕層を中心に俳諧や和歌が盛んに行われ、各地で句碑が建てられるなどしました。



日本近代詩の父と称される萩原朔太郎
(1886～1942)



明治・大正・昭和の歌壇で活躍した土屋文明
(1890～1990)



生活の苦勞を謳った俳人村上鬼城
(1865～1938)

■ 群馬特有の文化

地方交響楽団の草分けとして長い歴史を持つ「群馬交響楽団」、群馬の歴史や営みを凝縮した「上毛かるた」など、地域に根ざした文化資産が広く県民に親しまれています。

<群馬交響楽団>

「群馬交響楽団」は、昭和20年11月、高崎市民オーケストラとして誕生しました。終戦直後の社会を音楽で明るくしようと、音楽家たちが集まり楽団を結成したもので、地方オーケストラとしては最も古い歴史を誇ります。

昭和22年5月から、小・中学校を訪問して生演奏を聴かせる移動音楽教室がはじまり、現在までに延べ600万人もの小・中学生が鑑賞しています。



現在は、県内すべての子どもたちが、中学校卒業までに3回、高校生は1回、必ず群響の演奏を聴くことができます。

<上毛かるた>

「上毛かるた」は、昭和 22 年に作られました。「上毛かるた」の札には、上毛三山をはじめとした県内の自然や温泉、歴史上の人物や地域の産業など群馬県の特徴が読み込まれており、時代を超えて県民に親しまれてきました。

今でも県内の各地域で毎年「上毛かるた」大会が開かれています。

県では、かるたの札だけでは伝えきれない思いや、かるたに読まれたふるさと群馬の良さをもっと知ってもらうため、「上毛かるた」を解説した冊子を作成し、郷土のことを学習する小学校4年生の副読本として活用されるよう、配布しています。



(3) 群馬の文化が持つ限りない可能性

文化は、人が自らの可能性を求めようとする創造的な営みであり、人々に楽しさ、感動、安らぎと生きる喜びをもたらすものです。また、人々の心のつながりを育み、多様な価値観が共有される社会で強い絆となり得ます。さらに、文化が有する創造性が新たな需要や高い付加価値を生み出し、より質の高い経済活動を実現する原動力にもなります。

今日、社会環境、経済状況等が大きく変化する中で、県民の郷土への誇りと愛着を深めるとともに、心豊かな活力ある地域社会を築き、本県が発展していく上で文化は不可欠なものです。

群馬は、古代から東国文化の中心地として発展してきた歴史と文化を備え、豊かな自然環境に恵まれた、多彩な魅力に満ちた地域です。

本県が持つ文化の価値を認識して、これを育み、新たに創造し、次世代に継承し、更に発展させていくことにより、群馬らしい文化の高揚を目指すことで、大きくはばたかせていくことができます。

■ 未来に向けて

私たちの生活の中に溶け込んでいる身近な食文化や、見慣れた風景の中に埋もれている歴史文化資産など、文化を広く捉え、本県の文化的風土を再評価し、地域づくり、観光振興、イメージアップなどに活かしていくことは、未来への投資につながります。

■ 郷土への愛着や誇りの育成

子どもたちに、群馬の歴史・文化を伝えることは、郷土への愛着や誇りを育むことにつながります。

■ イメージアップ

県民が郷土の歴史・文化の素晴らしさを知ることは、県民の一人一人が自信を持って外に向かい情報発信するようになり、本県のイメージアップにつながります。

■ 安全・安心な地域社会の構築

地域の伝統文化を守り、伝えていくことは、地域の絆を深め、ひいては安心・安全な地域社会の構築につながります。

■ 地域の活性化

地域の文化資産を観光や地域振興、まちづくりなどに活用していくことは、地域の価値を高めるとともに住民の意識を高め、地域の活性化につながります。

このように文化は限りない可能性を秘めています。

2 群馬県の文化を取り巻く現状と課題

昨今、社会情勢は急速な変化を続け、文化を取り巻く環境も大きな影響を受けています。

(1) 現 状

①人口減少社会の到来と少子高齢化

人口減少社会が到来し、少子高齢化や過疎化等の影響により、地域コミュニティの衰退と文化の担い手不足が指摘されており、地域の文化を支える基盤の脆弱化に対する懸念が広がっています。

②多様な主体による文化活動

これまで県内の文化活動の中心となっていた文化協会加盟の文化活動団体は減少していますが、文化芸術活動関係のNPO法人は増加しており、多様な主体による文化活動が行われています。また、民間と行政の協働による取組が進められ、企業のメセナ活動も多様な広がりを見せています。

③伝統文化継承の危機

市町村合併による地域活動の広域化や、山間地での過疎化が進む中、コミュニティ機能が低下し、地縁的なつながりや、人と人との絆が希薄になってきています。

平成20年に実施した県内の伝統文化継承に係る実態調査によって、神楽・獅子舞等の民俗芸能の約4分の1、祭り・行事の約1割近くが「継承の危機」にあることがわかりました。

④全国からみた本県の文化環境

全国からみた群馬県の博物館数については全国第20位、文化会館数については全国第16位であり、人口100万人当たりの館数は全国と比べて上回っています。一方、公立文化会館における主・共催公演数については全国第22位、入場者数については全国第16位ですが、大都市圏の公演数や入場者数が多いことから、全国平均数をやや下回っています。

首都東京から100km圏内に位置し発展を遂げてきた本県は、音楽や演劇などの舞台芸術や美術作品の鑑賞などの面で、東京への依存が指摘されています。

⑤本県の文化的価値と地域ブランド力とのギャップ

群馬県は、地域ブランド力が低く、歴史・伝統や名所・旧跡など、文化に関する地域ブランドの魅力が全国的にも低いといった指摘があることから、本県の持

つ本当の文化的価値とイメージが結びついていない結果であり、情報発信力が弱いと考えられます。

⑥情報通信技術の急速な発展

インターネット等の情報通信技術の急速な発展と普及は、県境も国境も越えた対話と交流を活性化させ、情報の受信・発信を容易にしたりするなど、あらゆる分野において人々の生活に大きな利便性をもたらしています。

⑦寄附制度の拡充

国の税制改正により、一定の基準を満たすNPO法人などに寄附した際には、平成 24 年 4 月から条件がそろえば、最大で寄附した額のおよそ半分が所得税と住民税の減額の形で戻ってくる、新たな寄附優遇の仕組みができました。

(2) 課題

①担い手の育成

誰もが、いつでも、気軽に文化活動に取り組めるよう、活動の場や情報の提供をはじめ、県民の文化活動を支援する団体や人材の育成、確保が必要です。

また、団塊の世代はもとより、時間的に余裕の少ない勤労者世代や子育て世代が、文化芸術の担い手となるような工夫が必要です。

②「新しい公共」による文化振興

厳しい財政状況を踏まえ、県だけで文化振興を担うのではなく、NPOや企業、地域住民など多様な主体と行政とで適切なパートナーシップを築き、新たな寄附優遇制度等も活用しながら、協働による文化振興を推進していく必要があります。

③伝統文化の保存・継承

群馬県には、長い歴史や風土の中で守り育まれてきた地域固有の伝統文化が数多く残されており、県民共有の貴重な財産です。

地域の絆を深め、安心・安全な地域社会の構築に欠かせない伝統文化が、将来にわたり、特に次世代を担う子どもたちに引き継がれていくよう、地域の実情に合ったきめ細かい支援が必要です。

④鑑賞機会の充実

文化施設の持つ機能を十分に発揮し、県民が身近な場所で、優れた芸術文化に接することができる環境を整備する必要があります。

⑤県内外への情報発信

群馬県が全国に誇る歴史文化遺産の価値を県民一人一人が再認識し、本県の持つ本当の文化的価値を県内外に発信していく必要があります。

3 県民等の文化に関する意識調査結果の概要と課題

群馬県文化振興指針の策定に当たって、県民（個人、企業、文化団体、文化施設）に本県の文化に関する意識を聞きました。

(1) 概 要

①群馬の文化イメージ

群馬の文化イメージは、「古墳をはじめとした歴史文化遺産が多く存在している」が最も高い割合となっている一方、「地域の文化資産が群馬の重要な観光資源となっている」や「文化を通じた地域づくり活動が進んでいる」と回答した割合は低く、地域の文化資産（伝統文化、文化財等、世界遺産等、景観、食文化等の多様な分野において活用される文化的な価値を有する資産）が観光・地域振興に結びついていないことが伺えます。

②文化の情報

文化芸術活動を行う上での支障は、「時間的余裕がない」が高い割合となっておりますが、次いで「文化活動に関する情報が少ない」となっており、必要とする文化情報が届いていない現況がみられます。

また、情報を得る媒体として、20歳以上の県民では「新聞、広報」、大学生、高校生では「Web サイト」の割合が最も高くなっています。これに対して、情報を提供する媒体は、文化団体では「チラシ、パンフレット」、文化施設では「チラシ、パンフレット」「Web サイト」となっており、情報を受け取る側と提供する側で相違があることが伺えます。

③文化活動への参加

鑑賞を除いた文化芸術に関わる参加・支援の状況は、20歳以上の県民では「地域の芸能や祭りへの参加」、大学生では「文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画などの創作・参加」が最も高い割合となっております。

内閣府の調査（平成21年11月調査）と比較すると、いずれの活動においても、県民、大学生ともに参加・支援の割合が高くなっています。また、内閣府の調査では「特にない」が76.1%に対して、県民では36.8%、大学生は21.5%であり、内閣府の調査と比べると少ない割合になっており、群馬県では文化芸術に関わる活動をしている人が多いといえます。

④文化団体が企業に期待する支援と企業ができる支援

文化団体が企業に期待する支援は、「資金援助」が最も高く、次いで「広報支援」となっています。

これに対して、企業が支援をできることでは「資金援助」が最も高く、次い

で「支援できることはない」、「広報支援」となっており、文化団体の要望と企業が支援をできることはある程度合致していることが伺えます。

⑤文化芸術活動への寄附

企業については約3割が寄附をしたと回答しており、県民では約1割の人が寄附をしています。また、企業に今後の県民への文化活動への支援について聞いたところ、「支援を行いたい」、「支援を検討したい」を合わせると5割を超える、前向きな回答がありました。

寄附を増やす方法として、県民では「寄附金の収支が明確になること」、大学生では「寄附先の情報が積極的に提供されること」の割合が高く、他方、企業、文化団体、文化施設では「寄附に対する控除など納税の際の優遇措置」が最も高い割合となっています。

⑥文化施設の利用

20歳以上の県民の半数以上が、この1年間に美術館・博物館を1回以上利用したことがあると回答しています。これは、内閣府の調査を若干上回る結果となっています。また、文化ホールへは、ほぼ半数近くが、この1年間に1回以上利用したことがあると回答しています。

今まで以上に、県内の美術館・博物館・文化ホールに行くために必要なことについて聞いたところ、県民では「展覧会・催し物の開催に関する情報をわかりやすく提供する」、大学生では「全国的あるいは世界的に著名な芸術家などの展覧会・催し物が開催される」、高校生では「入場料や使用料が安くなる」が最も高くなっています。これに対して、文化施設の利用増に向けた取組では「文化活動に関する情報の提供」が最も高く、次いで「設備を充実する」となっています。

⑦文化振興に関する施策の満足度と重要度

県民では「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっており、その他の施策については、重要度はすべて高くなっていますが、満足度はすべて平均値より低くなる結果となりました。中でも「次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供」の重要度は2番目に高いが、満足度はその他の施策と比較しても、低い結果となっています。

大学生でも「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。次に「伝統文化、有形・無形の文化財や歴史的な文書・記録の保存・活用（世界遺産などへの登録等を含む）」となっています。重要度では「次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供」が最も高く、満足度では「自主的に文化活動を行うための機会の充実」が最も低くなりました。

⑧文化の担い手

県民、大学生、企業、文化団体、文化施設ともに、8割を超える人たちが、県民一人一人が文化の担い手になることは大事だと考えています。

⑨文化活動の継続に必要なこと

県民、大学生、企業、文化団体、文化施設ともに、「誰もが自主的に文化芸術活動に参加しやすい環境づくり」が最も高くなっており、次いで「文化活動を支援する人材や団体の育成」と「文化活動に関する情報発信の充実」の割合が高くなっています。

(2) 課題

①地域の文化資産を活かした観光・地域振興

群馬が全国に誇る歴史文化遺産をはじめとした地域の文化資産を観光・地域振興に結びつけ、県内外に情報発信することで、本県の文化の実力に見合ったイメージアップを図る必要があります。

②情報提供のあり方

情報を受け取る側（ターゲット）の視点に立って、必要とする情報を的確に、ターゲットが利用する広報媒体で提供する必要があります。

③文化団体と企業とのマッチング

企業が県民の文化活動への支援を促進するため、企業側ができる支援と文化団体が期待する支援とのマッチングを図る必要があります。

④寄附文化の醸成

アンケートに回答した企業の5割以上が、「支援を行いたい」または「支援を検討したい」と回答しており、文化活動に対する寄附を増やすため、寄附がしやすい環境の整備に取り組む必要があります。

⑤文化施設の利用促進

文化施設の利用者を増やすためには、展覧会・催し物の開催に関する情報をわかりやすく提供するとともに、全国的あるいは世界的に著名な芸術家などの展覧会・催し物を提供する必要があります。

⑥群馬特有の文化の振興

群馬交響楽団や上毛かるたなどの群馬特有の文化の振興については、他の施策と比べて満足度・重要度ともに高いことから、継続して取り組む必要があります。

⑦子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供

子どもたちの豊かな心や感性を育むとともに、将来の文化芸術の担い手の子どもたちが文化芸術や伝統文化に触れる機会の充実に、これまで以上に取り組む必要があります。

⑧文化力の向上

文化芸術が県民に元気を与え、地域社会を活性化させて、心豊かな活力ある地域づくりを推進する力（文化力）を有していることを踏まえ、本県文化力の向上を図るため、県民ニーズにあった取組を積極的に進める必要があります。

⑨文化活動に参加しやすい環境の整備

8割を超える人たちが、県民一人一人が文化の担い手になることは大事だと回答していることから、本県の文化活動を活発にするためには、誰もが自主的に文化芸術活動に参加しやすい環境の整備や文化活動を支援する人材・団体の育成、情報発信の充実を図る必要があります。